

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病虫害発生予察情報について (予報第4号(8月))

標記について、次のとおり発表します。

なお、当室では、「病虫害発生予察情報」を主に農業指導者向け、別途発出する「病虫害発生・防除情報メールサービス」を主に農業者向けとして発信しております。

病虫害発生予察情報については、当該月に発生が懸念される病虫害のうち、巡回調査等に基づき発生量の多少を予報できる病虫害について主に記載しています。

《特に発生に注意》

- 【水稲】 斑点米カメムシ類
- 【果樹類全般】 果樹カメムシ類
- 【ぶどう】 フタテンヒメヨコバイ、ハダニ類
- 【なす】 うどんこ病
- 【ねぎ】 ネギアザミウマ(えそ条斑病)
- 【きく】 黒斑病・褐斑病
- 【野菜類・花き類】 シロイチモジヨトウ

《8月の予報概要》

A 水稲

品目 \ 程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
水稲		いもち病			
			縞葉枯病 (ヒメトビウンカ)		
			紋枯病		
					斑点米 カメムシ類
			トビイロウンカ		

B 果樹

品目 \ 程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
果樹類全般					果樹 カメムシ類
ぶどう			べと病		
		褐斑病			
			晩腐病		
		黒とう病			

ぶどう			チャノキイロ アザミウマ		
				フタテンヒメ ヨコバイ	
				ハダニ類	
もも (収穫後防除)			せん孔細菌病		
			シンクイムシ類		
みかん			黒点病		
			ミカンハダニ		
			ミカンサビダニ		

C 野菜

品目 \ 程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
なす			うどんこ病		
ねぎ			アザミウマ類		
			ネギアザミウマ(えそ条斑病)		

※ねぎは令和5年7月より巡回調査を開始したため、前年値との比較で予報しています。

D 花き

品目 \ 程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
きく				黒斑病・褐斑病	
			アザミウマ類		

E 野菜類・花き類

品目 \ 程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
野菜類・花き類				シロイチモジヨトウ	
			ハスモンヨトウ		
			コナガ		
			オオタバコガ		
			アブラムシ類		
		コナジラミ類			

《(参考)7月の気象予報》

気温	低い(10%)	平年並(10%)	高い(80%)
降水量	少ない(30%)	平年並(40%)	多い(30%)
日照時間	少ない(20%)	平年並(40%)	多い(40%)

大阪管区气象台 7月25日(木)発表「大阪府の季節予報-1か月予報」

(<https://www.jma.go.jp/bosai/season/#area type=offices&area code=270000>)

A 水稻

病害虫名	予想発生量	予報の根拠・注意すべき事項
いもち病	やや少ない ～並	[予報の根拠] ・7月の巡回調査では、発生は平年より少なかった。 ・8月の降水量は平年並と予想されている。
		[注意すべき事項] ・雑草を除去し、通風を良好にする。 ・チッソ肥料の過用を避ける。
縞葉枯病 (ヒメトビウンカ)	並	[予報の根拠] ・7月の巡回調査では、縞葉枯病の媒介虫であるヒメトビウンカの発生は平年よりやや少なかった。 ・8月の気温は高いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・ヒメトビウンカによって媒介されるウイルス病であるため、ヒメトビウンカの登録農薬を施用する。 ・雑草を除去し、通風を良好にする。 ・チッソ肥料の過用を避ける。
紋枯病	並	[予報の根拠] ・7月の巡回調査では、発生は平年並みでほぼ見られなかった。 ・8月の気温は高い・降水量は平年並と予想されている。
		[注意すべき事項] ・高温(28～32℃)、多湿時に多発する。 ・チッソ過多、密植、分けつ過多で発病が助長される。 ・品種としては、キヌヒカリは本病にやや弱いので注意。
斑点米カメムシ類	多い	[予報の根拠] ・7月上旬の予察灯による調査ではアカスジカスミカメの誘殺が平年より多かった。 ・一部地域でイネカメムシが誘殺された。 ・畦畔すくい取りではアカスジカスミカメやアカヒゲホソミドリカスミカメ(別名イネホソミドリカスミカメ)が確認された。 ・8月の気温は高いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・近年、本府ではアカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ(別名イネホソミドリカスミカメ)、ホソハリカメムシなどの発生が多い。 ・イネが出穂すると畦畔や周辺のイネ科雑草から水田に飛来してくるので、出穂 10 日前までに水田周辺の畦畔や休耕田の除草を実施し、穂揃期(7～8 割出穂したころ)に薬剤散布する。 ・イネカメムシは他のカメムシより早めの開花直後から加害を開始するため、出穂期に薬剤散布を実施する。

トビイロウンカ	並	[予報の根拠] <ul style="list-style-type: none"> ・7月上中旬の予察灯への誘殺虫数は平年並で見られなかった。 ・JPPネットのウンカ飛来予測システムにおいて、6～7月に断続的にトビイロウンカが大阪府に飛来した可能性があるとして推定されている。 ・8月の気温は高いと予想されている。
		[注意すべき事項] <ul style="list-style-type: none"> ・稲の株元(水際)に生息するので、稲の株元を叩くなどして発生しているかを確認する。 ・多発が見込まれるときは8月上旬～9月中旬に1～2回本田防除を行う。

B 果樹類

1 果樹類全般

病害虫名	予想発生量	予報の根拠・注意すべき事項
果樹カメムシ類	多い	[予報の根拠] <ul style="list-style-type: none"> ・7月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数(チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ)は平年より多かった。 ・7月の施設ぶどうおよびみかんの巡回調査で飛来を確認した。 ・8月の気温は高いと予想されている。
		[注意すべき事項] <ul style="list-style-type: none"> ・園地により飛来量は大きく異なる可能性があるため、園内を見回り発生及び被害状況を確認する。発生が見られる場合は速やかに薬剤防除を実施する。

2 ぶどう

病害虫名	予想発生量	予報の根拠・注意すべき事項
べと病	並	[予報の根拠] <ul style="list-style-type: none"> ・7月の巡回調査では、施設、露地ともに発生は平年並だった。 ・8月の気温は高い・降水量は平年並と予想されている。
		[注意すべき事項] <ul style="list-style-type: none"> ・発生を認めたら、被害葉を速やかに取り除くとともに、初期防除を徹底する。
褐斑病	やや少ない	[予報の根拠] <ul style="list-style-type: none"> ・7月の巡回調査では、発生は平年より少なかった。 ・8月の降水量は平年並と予想されている。
		[注意すべき事項] <ul style="list-style-type: none"> ・枯枝や落葉、被害葉は取り除き、ほ場外へ持ち出し処分する。
晩腐病	並	[予報の根拠] <ul style="list-style-type: none"> ・7月の巡回調査では、発生は平年並だった。 ・8月の降水量は平年並と予想されている。
		[注意すべき事項] <ul style="list-style-type: none"> ・被害果房は取り除き、ほ場外に持ち出し処分する。 ・施設内への雨滴の侵入を防ぐ。

黒とう病	並～ やや多い	[予報の根拠] ・7月上旬の巡回調査では、一部施設ほ場で発生がやや多かった。 ・8月の降水量は平年並と予想されている。
		[注意すべき事項] ・伝染源となる発病枝を除去し、適切に処分する。
チャノキイロアザミウマ	並	[予報の根拠] ・7月の巡回調査では、被害果率は平年並だった。 ・7月の黄色粘着トラップ調査における誘殺虫数は平年より少なかった。 ・8月の気温は高いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
フタテンヒメヨコバイ	やや多い	[予報の根拠] ・7月の巡回調査では、収穫が終わった複数のほ場で発生が平年より多かった。 ・8月の気温は高いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・発生に注意し、被害の初期に防除する。
ハダニ類	やや多い	[予報の根拠] ・7月の巡回調査では、収穫が終わった複数のほ場で発生が平年より多かった。 ・8月の気温は高いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・乾燥を好み、ハウス栽培でしばしば多発する。

3 もも(収穫後防除)

病害虫名	予想発生量	予報の根拠・注意すべき事項
せん孔細菌病	並	[予報の根拠] ・7月の巡回調査では、発生は平年並だった。 ・8月の降水量は平年並と予想されている。
		[注意すべき事項] ・収穫後もせん定等で発病部位を取り除くようにし、発生の多い園では秋季(9～10月)に薬剤散布を行う。
シンクイムシ類	並～ やや多い	[予報の根拠] ・7月の巡回調査では、発生は平年よりやや多かった。 ・7月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数は平年並であった。 ・8月の気温は高いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・ももの果実に食入するシンクイムシ類は、ナシヒメシンクイ、モモシンクイガ、モモノゴマダラノメイガがある。 ・被害果実や被害枝は除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

4 みかん

病害虫名	予想発生量	予報の根拠・注意すべき事項
黒点病	並	[予報の根拠] ・7月の巡回調査では、発生は見られなかった(平年並)。 ・8月の降水量は平年並と予想されている。
		[注意すべき事項] ・伝染源となる枯枝は除去し、ほ場外に持ち出し、適切に処分する。
ミカンハダニ	並	[予報の根拠] ・7月の巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 ・8月の気温は高い・降水量は平年並と予想されている。
		[注意すべき事項] ・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
ミカンサビダニ	並	[予報の根拠] ・7月の巡回調査では、発生は見られなかった(平年並)。 ・8月の気温は高いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

C 野菜類

1 なす

病害虫名	予想発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
うどんこ病	並～ やや多い	[予報の根拠] ・7月の巡回調査では、発生は平年よりやや多かった。 ・8月の降水量は平年並・日照時間は多いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・チッソ過多で気温が 25～28℃、湿度が 50～80%で日照不足が続くと発生する。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。QoI 剤(アミスター、ストロビー、シグナムなど)、SDHI 剤(アフエット、シグナムなど)等は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。
アザミウマ類	やや少ない ～並	[予報の根拠] ・7月の巡回調査では、発生は平年より少なかった。 ・8月の気温は高いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・感受性が低下している薬剤が多く、発生が増えると防除が困難なため、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・葉の被害に注意し、少発生時の防除を徹底する。 ・施設栽培では、開口部に 0.8mm 以下目合いの防虫ネットを張り、成虫の侵入を防止する。

アザミウマ類	やや少ない ～並	・露地栽培では、天敵昆虫の温存を図るため、ソルゴー囲い込み栽培などを行う。
--------	-------------	---------------------------------------

2 ねぎ ※ねぎは令和5年7月より巡回調査を開始したため、前年値との比較で予報しています。

病害虫名	予想発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
ネギアザミウマ (えそ条斑病)	並～ やや多い	[予報の根拠] ・7月の巡回調査ではネギアザミウマの寄生株率が約33%であり、えそ条斑病の被害株率が約24%であった。 ・8月の気温は高い・降水量は平年並と予想されている。
		[注意すべき事項] ・ネギアザミウマは、高温で少雨の時に多発しやすい。 ・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・ネギアザミウマはえそ条斑病の病原ウイルスであるアイリスイエロースポットウイルス(IYSV)を媒介する。

D 花き(きく)

病害虫名	予想発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
黒斑病・ 褐斑病	やや多い	[予報の根拠] ・7月の巡回調査では、発生は平年より多かった。 ・8月の降水量は平年並と予想されている。
		[注意すべき事項] ・降雨の多い場合に発生が多いので、雨が予想される場合は、発生前から薬剤の予防散布を行う。 ・被害葉は早めに取り除き、ほ場外に持ち出し処分する。 ・QoI剤は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。
アザミウマ類	並	[予報の根拠] ・7月の巡回調査では、発生は平年並であった。 ・8月の気温は高い・降水量は平年並と予想されている。 [注意すべき事項] ・品種により被害の現れ方に差がある。 ・ほ場内部、周辺の除草に努める。 ・きくの残さは放置せず、ほ場外に持ち出し処分する。 ・ビニールなどのマルチングにより、土中で蛹化するのを防ぐ。 ・施設栽培では、開口部に防虫ネットを展張し、成虫の侵入を防止する。 ・感受性が低下している薬剤が多く、発生が増えると防除が困難であるため、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・葉の被害に注意し、少発生時の防除を徹底する。

E 野菜類・花き類

病害虫名	予想発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
シロイチモジヨトウ	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数は、複数の地点で平年より多かった。 ・7月の巡回調査では、露地ねぎで発生が見られた。 ・8月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期(若齢幼虫期)に防除を徹底する。卵塊や集団でいる幼虫の除去に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。特にジアミド系薬剤の連用を避ける。
ハスモンヨトウ	並～ やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数は、複数の地点で平年よりやや多かった。 ・7月の巡回調査では、発生は平年より少なかった。 ・8月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期(若齢幼虫期)に防除を徹底する。卵塊や集団でいる幼虫の除去に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
コナガ	並～ やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数は、複数の地点で平年よりやや多かった。 ・7月の予察灯への誘殺虫数は、平年よりやや少なかった。 ・8月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期に防除を行う。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。特にジアミド系薬剤の連用は避ける。
オオタバコガ	並～ やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数は、複数の地点で平年よりやや多かった。 ・7月のなす(露地栽培)での巡回調査では、幼虫の発生は平年並であった。 ・8月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼虫の捕殺は、被害軽減効果大きい。 ・摘除した茎葉や果実にも、卵や若齢幼虫が付着していることがあるので、ほ場から持ち出し処分する。
アブラムシ類	並～ やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月の巡回調査では、発生は平年並であった。 ・7月の黄色水盤調査における発生は平年よりやや多かった。 ・8月の気温は高いと予想されている。

アブラムシ類	並～ やや多い	[注意すべき事項] ・作物を吸汁し、生育を阻害する。また排泄物にカビが発生し、すす病の原因となる。さらに、各種のウイルスを媒介し、作物によっては致命的な被害をもたらす。 ・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
コナジラミ類	並	[予報の根拠] ・7月の巡回調査では、発生は平年並であった。 ・8月の気温は高いと予想されている。 [注意すべき事項] ・施設栽培では、開口部に0.4mm目合いのネットを張り、成虫の侵入を防止する。 ・ほ場内や周辺部の除草を徹底する。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

LINE 始めました! 週1回程度、病害虫や大阪エコ農産物制度に関する様々な情報をお届けします。
こちらより友達登録:<https://works.do/R/ti/p/byogaichu@bojo>

大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ・ホームページ

- ① <https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/index.html>
- ② <https://www.jppn.ne.jp/osaka/>

病害虫発生情報メールサービス

申込先 大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループメールサービス担当
<https://www.jppn.ne.jp/osaka/mailservice/mailsservice.html>

おおさかアグリメール

申込先 大阪府立環境農林水産総合研究所企画部企画グループおおさかアグリメール受付担当
<https://www.knsk-osaka.jp/nourin/agrimail/>

Web版大阪府園芸植物病害虫図鑑「ひと目でわかる花と野菜の病害虫」(大阪府植物防疫協会)
<http://osaka-ppa.jp/zukan/index.php>

※情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です。